

会社の『かたち』

私達は今までいろんな会社に関わらせていただきました。その中で会社の『かたち』に一定の分類が出来ます。これは経営者の考え方（マインドセット）により左右され、それが必ずと言っていいほど会社の体質や規模に反映しています。いわゆる投影の法則（『ザ・メタシークレット』より）です。経営者のマインドが従業員にも投影され、従業員の総体である会社の姿に投影されているのです。

<税金をどう考えるか>

- ① 利益をコントロールして法人税を払わない。
- ② 利益を出すことに専念する。（税金を払ってでも）

それぞれのマインドセットを観察してみましょう。①は、納税を敵視してしまう思考になっており事業が発展しないパターンです。税務上の繰越損失を利用したり赤字と黒字を繰り返すことで、利益が出ることよりも税金を払わなくて済んだ事に喜びを感じます。このような会社は今資金が足りず四苦八苦しているか、その業界での事業拡大を諦めている、もしくは利益を出す必要がない。新たな銀行融資の必要性がない、もしくは貸してもらえない。どちらかという現状維持や後ろ向きなマインドセットになっているのです。そのようなマインドセットが経営者の判断をこのような解決策に導き、会社のかたちが決まってしまうのです。お金や資金繰りに意識がフォーカスされているのです。思考が内向きで、無駄なお金を出したくないという事だけを考え、収益が上がらなければ、自分の役員報酬は維持して、従業員の給与カットをやる。会社の規模は必ず縮小への道へまっしぐらです。そこには戦略はありません。そして、そういう経営者が決まって言うセリフは、「俺の会社だ!」。

次に②のケースは、利益が出れば納税は当然で避けることが出来ないという事を認識し、そんな事よりも事業拡大に完全にフォーカスされている。意識は前向きで、売上を上げる事即ちお客様（あえてここではクライアントと呼びます。）が喜ぶ為に、我々はどういうサービスを提供するか？現場にそのヒントがあり、自ら率先してアクションを起こします。巨額の投資をするのではなく、小さな規模でテストをして、「本当にクライアントが喜ぶか？ベネフィット（便益）を与えることが出来るか」というクライアントの見えない要望をこちらが体現させてあげるのです。

結局、会社というのは経営者のマインドによって良くも悪くもなり、その規模は経営者の人格以上のものにはなりません。いくつもの会社の経営をまじかで見えてきて、これは相当確からしい事実であります。余分な税金を払う必要はありません。出来る限り節税して次の投資に振り向けることは必要です。あなたの会社がどちらの道を歩むかは、社長！あなた次第です。